

令和4年度  
地域福祉コーディネーター  
事業評価書

調布市

**【事業概要】**

地域福祉における地域と行政，専門機関等とのネットワーク構築と地域の生活課題を解決する包括的な相談支援体制づくりを進めるとともに，住民が主体的に地域課題を把握し，解決を試みることができる体制の構築を支援します。

**【地域福祉コーディネーターとは】**

「地域福祉コーディネーター」は，制度の狭間で苦しんでいる方や既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方などに対し，地域福祉を育むことにより，地域の生活課題の解決に向けた取組を行います。主な役割としては，地域の生活課題やニーズを発見し，受け止め，地域組織や関係機関と協力しながら，地域における支え合いの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワークづくりを行います。

**令和3年度の取組実績**

**【決算額】**

**62,874千円**

**【取組実績】**

調布市地域福祉計画に基づき，地域福祉コーディネーターが令和元年度中に2人増員され，令和2年度は年度当初から8つの福祉圏域全てに配置された体制となった。その体制の中で，制度の狭間で苦しんでいる方や既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができない方等に対し，地域福祉を育むことにより，地域の生活課題の解決に向けた取組を行った。具体的には，複合的な課題を抱える方や世帯への個別支援やサロンの立ち上げや子どもの居場所づく支援などの地域支援など，幅広く支援を行った。相談件数は，個別支援、地域支援ともに増加し，令和2年度に比べ77件増となり，1圏域当たりの相談件数も87.5件から97.1件に増加した。

**【今後の取組】**

引き続き，地域共生社会の充実に向けて，関係機関と協力しながら，個別支援に取り組むほか，地域での生活を支えるネットワークづくりを推進する。また，新型コロナウイルスによる影響や，自粛後の活動支援等に取り組む。また，地域福祉コーディネーター相互の連携を図り，より効果的な事業展開に努める。

**令和4年度の取組概要**

**【決算額】**

**千円**

**【事業の概要】**

調布市地域福祉計画に基づき，8つの福祉圏域全てに配置された地域福祉コーディネーターにより，地域の福祉課題やニーズを発見し，受け止め，地域組織や関係機関と協力しながら，地域における支え合いの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワークづくりを進める。具体的には，①アウトリーチ等を通じて潜在的な支援ニーズを抱える者を早期に把握するための取組を行うとともに，地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握を通じて一つの機関だけでは解決しづらい複合化，複雑化した生活課題を抱えた世帯に対し，チームアプローチによる支援に取り組む。②複合化・複雑化した生活課題を抱える相談者に対し，豊富な既存資源を活用し，多分野で連携できる会議体等のネットワークを構築し，多機関協働による支援を行う。③本人やその世帯の支援ニーズを踏まえた定着支援，フォローアップ等，地域における社会資源の活用体制構築等を行う。④地域における多世代の交流や多様な活躍の場を確保する地域づくりに向けた支援を実施する。

# 1 事業全体に対する総括的評価, 意見等

## (1) 評価・委員意見等

評価	◎ (目標を上回る効果がある)	12
	○ (目標どおりの事業進捗・効果がある)	1
	△ (目標より事業の進捗が遅れ, 事業効果が低い)	0

- 今後実施段階に入ると予想される、重層的支援体制事業の基盤が8圏域の福祉基礎圏域が動き出していることでできている評価かできる。その基盤の上に地域福祉コーディネーターが配置され報告書に見られる活動を見ると、重層的支援体制事業が実質的にある程度行われているように思える。この実践の上に重層的支援体制事業が行われるとすると確実な進展ができるように思う。
- 次のような取組を高く評価する。①活動の難しいコロナ禍においても既存のツールの取り組みを更に発展させ、新しいツールの立ち上げに取り組んでいる。②福祉団体、公的機関、医療機関、法律専門家などとの協働に取り組んでいる。
- I. 相談支援、II. 参加支援、III. 地域づくりに向けた支援、IV. 生活困窮者等の支援に向けた地域づくり事業等すべての項目で、量的側面、質的側面の両方において、目標を大きく上回る取り組みと、成果が得られたことは、素晴らしいことだと思います。引き続き今後に向けて積極的に取り組んでいただきたいと思います。
- 少しずつ、コロナと共存していく上での活動が増えていることは、とても評価できると思います。
- 調布市の地域福祉コーディネーター制度は、CSWが地域にアウトリーチすることで、福祉制度の狭間にあり、自ら声をあげることが出来ない等、顕在化されていない生活課題を早期に発見し、解決に繋げること、そして、地域住民が主体となってそうした課題の発見から問題の解決にも寄与する地域の仕組みづくりを支援することを目的として始めました。発足から10年、8圏域への専任配置による体制強化からは4年が経ち、この数年は、新型コロナの影響で活動に制約を強いられる中でも、着実に成果を挙げてこられたと思います。令和4年度の事業についても、こうした10年の歴史の積み重ねの上にあります。特徴的なこととして、精神疾患を抱えて無職の期間が続く姉弟への社会参加を促す伴奏、企業との連携による就労が困難な若者たちへの体験ワークの実現、メンタルクリニックの受診へのハードルが高い引きこもり者たちへの医師による個別相談会の企画など、個人のニーズに寄り添うとともに、新しい着想でその解決を目指そうとする努力を評価したいと思います。また、地域づくりについても、両親が遅くまで働く家庭の子どもたちのためのフリースペースやシングルマザー向けの食堂などの居場所づくり、住民が声をあげて始まったヤングケアラーを守る会の立上げ支援など、地域住民の様々なニーズを掘り上げ、住民主体の活動につなげようとする取組についても高く評価したいと思います。
- 質的成果がどの活動も素晴らしい。1年間で、これだけのことをするのは、大変だったと思う。コロナ禍で、疲弊している人もいる中、救われた人が多かったのではないのでしょうか。困っている人や家族、地域が活動することで、助け合える関係づくりが広がって行くことを願っています。
- 日々の活動の中での市民からの相談から地域課題を抽出し、活動・支援の対象の幅を広げており、大きく評価できる。

- 多機関連携に努め、支援に繋げている事業と評価できる。
- 地域ごとにネットワークを構築するとともに、各種団体との連携を深めている。
- 全ての事業で量的な成果が上がっていることは大変評価できる。
- 幅広い相談を受けている窓口機能は維持しつつ、支援やサポートに関しては、他機関と共有・連携をしながらの取り組みに期待する。
- 限られた人員でしかもコロナ禍で行動制限の中、多くの支援と他の組織、団体などとの連携により支援体制を構築してきたことは評価できる。
- コロナ禍でも目標達成ができていなのは、評価できる。
- しかも新分野にも広げて相談支援を行っていることは地域福祉コーディネーターの皆さんが本気で取り組んだ結果だと思う。
- CSW が積極的に地域を回り、量的にも質的にも成果を上げていることを評価したいです。特に制度の狭間にいる方達への支援や居場所作りができたことは高く評価したいです。
- コロナ禍にもかかわらず、複数団体や地域住民の相談対応の実施は評価できる。
- ひだまりサロン等、交流の場の立ち上げや地域福祉の担い手発掘事業の取組を評価したい。
- コロナ禍であったため、活動しにくい部分も多々あったかと思いますが、全てにおいて目標値を上回っており、日々地域に出向き課題に取り組まれたことは大いに評価できる。
- 既存の枠にないものを、様々な機関と連携し、地域に根付かせることはなかなか難しいと思うが、着実に結実しているものがあると理解できた。

## (2) 今後の検討課題等

- 圏域別専門職等ネットワーク会議が全福祉基礎圏域で実施されたのは大いに評価される。しかし、夫々の団体機関から共有し取り組むべきケースの判断基準、対応策を検討し、作成、されに役割分担、協働していくさらにモニタリング等の主な担当は誰が担当するのか、地域福祉コーディネーターであるとするケースが増えていけば担いきれなくなる事であろう。さらに夫々の機関や団体が、既存の役割の範囲で協働するのか、既存の役割の範囲を超えて協働し合うかが大きな課題になろう。既存の役割を超えないとすれば地域福祉コーディネーターの役割が重くなり担いきれなくなるように思う。コーディネートする期間とケアの期間とを分けて考えることも必要。行政の関わりが必要。等々の課題がある。
- ①既存のツールだけでなく、社会福祉法人や企業、商店との新しい協働の開拓をどのように行っていくか。②「社会福祉法人公益活動連絡会」との協働をどのように行っていくか。③地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、調布ゆうあい福祉公社などとの情報共有、協働を更に進める。④今まで培ってきたノウハウや人とのつながりによる信頼関係をどのようにして若い新人に継承していくか大きな課題です。
- 各団体と連携を深めていく中で、仕事量の増加による CSW への負担が多くなっているように見受けられます。CSW を助けられる支援者が、もっと増えることを願います。
- 潜在的な支援ニーズを抱えた人や家族の中には 80-50 問題のような事例を初めとして、不登校や非行、虐待の被害の子どもたち、それらメンタルな悩みを引きずり就労に辿り着けない若者たち等若い世代の事例も少なくありません。CSW の皆さんは、アウトリーチの活動を通じて、そうした課題がなぜ生じたのか、また、その課題解決には何が必要なのか、フォーマル・インフォーマルを含めてどのような社会資源が不足しているかを明らか

にする役割も期待されています。換言すれば、地域社会の現場から地域福祉の充実を図るために何をすべきかを提示するアンテナ機能だとも言えます。皆さんは、圏域別ネットワーク会議などに参加することで、情報収集に努められていますが、必要に応じて公的機関や民間のNPOなどによるケース会議などにも可能な範囲で同席されることも有意義なのではないでしょうか。CSWの皆さんの期待される役割のもう一つは、地域づくりの支援です。下布田遺跡公園整備のワークショップへの参加の事例のように、子どもから高齢者まで地域の全世代の交流の場になることを目指した取り組みも重要です。学校ボランティアも一例ですが、福祉という視点だけに囚われず、時間などに余裕のあるシニア層をまちづくりのボランティアとして取り込んでいく試みにも挑戦すべきと考えます。地域福祉ニーズ調査で、「手伝い・手助けのニーズとシーズのマッチングする仕組みや双方の情報を知る仕組み」があれば望ましい」という回答が多数を占める結果となっていますが、こうした取り組みもいくつかの解決策の一つになり得るのではないのでしょうか。

- まずどこに相談したら良いかなど、きっかけになる第一歩の窓口を一つにして、周知を広げて行くといいと思う。そこから関係機関に繋げていくなどすると、より分かりやすいように思う。
- 引き続き、市民からの相談や地域の関係機関との連携から地域の課題を分析し、地域の実情を反映した取組を進めてほしい。
- 各団体が主体的に活動し継続性のあるものにしていけるよう支援していけるとよい。
- ニーズ調査でどこに相談してよいかわからないという回答が多かった背景を受け止め、CSWの活動をより普及できるとよい。
- コロナ禍が少し落ち着いてきて、様々なニーズが出てくることが予想される。そのニーズへの対応をはじめCSWの活動にさらに期待したい。
- 支援体制が強化されたことによって支援の量的、質的な変化に注目したい。
- 今後は地域福祉コーディネーターをサポートするような個人、団体を育成していくことにも注力すべきだと思う。
- 各圏域において、CSWがとても努力されており、ニーズ把握はだいぶ進んでいると思われる。更なる居場所作りをしていくことが必要であると思います。
- 今後相談数が増えることが予想されるため、コーディネーターの増員が望まれる。
- 新型コロナウイルスの影響で住民生活に変化が見られ、なお一層住民に寄り添う取組の検討が必要と思われる。
- R5年度はコロナ禍が明け、様々な活動で動き出す方も多くいると思われるので、その方たちと繋がり新たな物が出来ることを期待したい。
- 数値を見るとコーディネーターの負荷が心配になります。無理なく長く継続できるように今後もお願い致します。
- 事業報告書には回数等の表記が多かったが、その内容の分析や課題を含めた成果が分かる形で、ぜひ関係機関や地域に周知を図ってほしい。それが、今後の協働に繋がると思うので。

## 2 令和4年度における個別の事業に対する評価等

### I-1 相談支援-アウトリーチ等を通じた継続的支援の取組

#### (1) 地域住民の相談を包括的に受け止める場の整備

##### ①評価

- コロナ感染が多く集団で利用する場の維持が難しいなかで次のように取り組みを行っており高く評価する。①ひだまりサロンや自治会、地域の活動団体などの既存ツールだけでなく、公民館サークルなど新たなツールに積極的に参加して啓発とともにニーズの掘り起こしに取り組んでいる。②仙川ポストのように誰でも気軽に利用できる居場所を様々な利用形態や若者から高齢者までの多世代がそれぞれの目的で活用するステーションに発展させている。③子ども食堂もひとり親世帯向けやハラルフードなど多様な取り組みに発展させている。④隣接自治体との垣根を超えて、近隣住民の集える居場所づくりに取り組んでいる。⑤今後もこのような取り組みが広がっていくことを願います。
- 地域にアウトリーチする姿勢の下、8名のCSWとひだまりサロンやボランティア等の積極的な取り組みによって、量的側面、質的側面の両方において、目標を大きく上回る取り組みと、成果が得られたと思います。特に、食を通しての国際的な交流や寺院の協力の下「誰もが迎える最期についての語り合い」など、自治体枠を超えた広がり等、まさに重層的な相談支援体制の構築に向けた取り組みとして高く評価できると思います。
- フードパントリー団体の増加は、とても良い傾向にあると思います。
- 各地域に配置された地域福祉コーディネーター(CSW)が、地縁組織やボランティア団体などがその活動の中で地域の生活課題を把握できるように働きかけを行うとともに、食の提供や終活など新たな交流の場としての団体の立上げの支援を行っている。それらは、地域住民が主体となって住民の相談を包括的に受け止める場の構築を目指すもので、潜在的な支援ニーズを抱える住民を早期に発見し、解決を図るための重要な活動である。
- 量的成果として、目標を大きく上回る活動をしたこと、また、地域の交流だけではなく、ひとり親世帯向けの対応もできて、多様な形での広がりが見られたことは大きく評価できる。
- 多様性を持った取組を行っており、市民のニーズを素早く察知した取組であると考えている。
- 地域特性を生かし、関係機関と連携されており、今後活動がより周知されていくとよい。
- 多様な形式での団体が立ちあがったのはCSWが地域に出向き、住民の声を聞き、ニーズを拾い次へつなげた結果だと言える。他市との連携した取り組みも評価できる。
- 行政区画を越えた組織や既存の組織との連携、活用は有意義なことであるので今後も積極的に推進するよう期待したい。
- 地域福祉コーディネーターを8人配置したことを評価する。
- 近隣住民誰もが集える場の創設の為、会議や講演をしたことを評価する。
- 他市の地域包括支援センターと連携したことについて、高く評価したいです。どうしても自治体を越えての連携は色々と難しいところがあるが、努力して調整し、実現されたのだと思います。
- コーディネーター8人配置は、地域にアウトリーチを行い、新たな場で多くの団体との多面的な相談対応ができた。次につながる一步として大いに評価できる。
- 目標値を大きく上回っており、成果として上がっている。

- 調布市だけでなく、近隣市の三鷹市とも連携が出来良い関りが出来ている。
- 子ども食堂やフードパントリーの数も増えており、多様な形式での団体が立ち上がり参加者が選べることは良いと思う。
- 地域交流の場が増えただけでなく、その中で多様な団体が立ち上がったという成果は評価できると思う。

## ②検討課題や今後の期待

- ハラルフードの問題は、ある意味アレルギーに匹敵するような問題だと思えるので、周知と理解が必要だと思います。
- 周知をしていくことで、更に安心して生活できる人が増えていくと思うので、情報提供の場を広げていくといいと思う。
- 地域課題の早期発見・早期解決結びつくために、受け止める場の整備は不可欠である。
- 市境は不便なところが多く、今後も市境にも目を向け積極的に関りを持ってほしい。
- (子ども食堂やフードパントリーについて) 参加者が自分で調べて参加できるようなマップのような物が随時更新できると良いと思った。
- 回数等を見れば、積極的なやり取りがあったと理解できるが、働きかけや場の検討が同じ団体に対して継続的なものであるか等が見えづらいので、働きかけが何力所に対してか等をデータで表す項目があっても良いと思った。

## (2) 地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握

### ①評価

- 次のように取り組みを行っており高く評価する。①昨年立ち上げに関わった移動販売に引き続き関り、井戸端会議的な集まりをフォローしてニーズの掘り起こしを図っている。②専門職等ネットワーク会議や複数圏域の合同会議など各機関の負担を軽減しながらお互いの情報共有や信頼関係づくりに取り組んでいる。③医療機関のカフェを使っでの居場所の立ち上げなど問題を抱えている当事者が気軽に集い話せる取り組みをしている。④福祉分野のみでなく医療や法律専門家との協働によって難しい案件の解決につなげている。
- 福祉8圏域のすべてで、専門職などネットワーク会議が開催されたことは大きな前進と思います。会議を通して「顔の見える」関係を構築することは、早期発見、ニーズに即した適切な対応につながるものであり、今後、さらに、福祉・医療・教育・司法の4領域での連携が強化されていくことを期待します。
- 文中にあった、「顔の見える関係性」というのは、コロナ禍を経て、すごく重要であると感じました。他会議でも重要視されていることですが、「福祉と医療」「福祉と教育」という連携は、とても大事だと思うので、今後期待しています。
- 各圏域に実施する専門職などによるネットワーク会議は、各機関の役割を共有するとともに、連携や支援の課題を把握するために重要である。こうした取り組みは、一つの機関だけでは解決の困難な課題における、チームアプローチの重要性を認識できるとともに、それを促す契機ともなる。とりわけ、課題を抱えた子どもや若者のケースでは、報告書でも指摘されているように、福祉以外にも、医療、教育、司法等との連携が必要であり、そうした連携を通じて、新たな社会資源の創出(フォーマル・インフォーマル)を検討する契機にもつながる。CSWの皆さんが、子ども家庭支援センターや教育委員会、キートスのよう

な民間の支援組織が関わる支援会議などにも可能な範囲で参加されることも有効なのではないか。

- 会議も多く、繋がりが広がっていて、素晴らしいと思う。必要なネットワークができて、専門的な分野に繋げやすいので、いろいろなケースに対応しやすいと思う。今後も継続して連携の取りやすい状況を維持していくことに期待している。
- 関係者・関係機関との連携を通し、課題の早期把握、課題解決に向け素早く取り組んでいると考える
- 福祉、保健分野の他、地域の様々な分野との話し合いを通して、多角的な視点で地域の課題に取り組むことで、解決策の幅も広がると考える。
- 関係機関との連携が以前は十分でなかったと理解したが、地域の生活課題の解消には複合的な視点からのアプローチが必要となるので、今後の連携に期待する。
- 福祉分野以外の医療・教育・司法などとの連携の必要性が議論に上がったことを評価する。
- 東部地域において、福祉と医療の連携によりネットワーク構築できているのがコミプロつつじであると思います。今後もっとこういった拠点が増えていくとよいと思います。
- 福祉分野以外の医療・教育・強いては司法等との連携の必要性に今後も期待したい。
- 複合的な多くの課題や問題の相談が多く見られ、チームアプローチによる支援の取組には期待したい。
- 様々な分野が福祉圏域ごとに関係構築が出来、制度の狭間になりやすいケースに対して連携しやすくなったことはとても評価が出来る。
- 関係機関のネットワーク構築が進んだことで、制度の枠から漏れやすい地域住民のニーズ把握に繋がっており、評価できる。

## ②検討課題や今後の期待

- 全圏域での開催とのことだが、地区によって声がかかるところとかからないところがあるのは、情報の偏りがあると感じる。今後、会議を開催することにフォーカスするだけでなく、参加者や検討課題も考慮してほしい。
- 他分野にわたる問題なので、課題に応じた会議を開催する必要があるのではないかと思う。
- 今後はさらに福祉分野以外との連携が取れるよう調整を進めて欲しい。

## I - 2 相談支援 - 多機関協働の取組

### (1) 地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知

#### ①評価

- 次のような活動を行っており評価するが、今後更に進展するよう願っている。①既存のツールだけでなく、社会福祉法人や企業、商店とも連携して、各自のもつ資源を活用した取り組みを立ち上げている。②「社会福祉法人公益活動連絡会」に参加して、「福祉なんでも相談窓口」に参加している。今後も更に連携を深めて、お互いのノウハウを活かした協働活動を発展させていくよう願っています。③地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、調布ゆうあい福祉公社などとの情報共有、協働が更に進むよう願っています。④精神疾患者は自ら診察や相談に出向くことが少ないことから、精神科

医と協働でちょっとした気軽に話せる雰囲気相談会を立ち上げて、引きこもり者の誘導を行った。

- コロナ禍で、「小地域交流事業」が行われなくなっているのが残念です。しかしながら、その中でも工夫して周知の場を設けているのが窺えて、素晴らしいと感じました。
- 地域住民が抱える生活課題の相談を包括的に受け止める場としての、地域組織や各種のボランティア団体とそれを受けて問題解決を図るCSWの存在を幅広く周知してもらうことは重要なことである。令和4年度の地域福祉ニーズ調査で、日常生活での困りごとを相談できる人や機関を聞いた設問で、CSWの認知度は1%前後と低い結果となっている。残念ではあるが、日常生活で誰かの支援を必要とするような困りごとを抱えた人々が多くないことを考えると、肯ける結果でもある。しかし、どのような市民も、病気や事故などで突然に、また、加齢などにより困難な課題を抱えることはあり得るので、そのような事態になった場合に相談相手として頭にあるかどうかは、その後の解決を容易にするしないを左右することにもなりうる。CSWの皆さんには、こうした取組みをぜひ進めてもらいたい。
- 各圏域において、周知を図っていて努力が素晴らしいと思う。こんなにも努力していてもまだ認知の広がりには少ないように思う。引き続き、広げていってほしいです。
- 様々な会議やイベントで周知を行っており、支援の広がりにつながっていることは評価できる。
- 啓発活動について件数が900回を超え相談や支援につながっていることは評価できる。それにともない地域コーディネーターの認知度も向上していると思われる。
- 認知症サポーター養成講座を開催したことを評価する。
- 量的目標を上回る量的効果があがっているように、CSW1人ひとりが精力的に地域を回ったことで、認知度が上がっていると思われます。
- 小地域交流事業、また各地域イベント等を通して周知されていて、認知度はかなり高い。
- 目標回数を上回る成果が出たことは評価できる。

## ②検討課題や今後の期待

- 昨年取り組んだ保健所ネットワークをどのように活用していくか課題です。
- 活動が広く市民に知られていない状況なので調布市全体での広報支援が必要と感じています。
- 「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」の取り組みは、地域福祉発展の前段階の取り組みとしてとても大切と考えます。市の市民福祉ニーズ調査においても、特に高齢者調査や障害者調査では、高齢福祉や障がい福祉に関わる諸制度や窓口について、それぞれかなりの高い率で「知らない」と答えているので、「福祉制度・窓口の周知」や包括的に受け止める場の周知を引き続き取り組み、発展させて頂きたいと思います。さらに福祉教育の推進に関わって、同じく市の障害児の保護者調査の中で、「日常生活における不安や課題」「障がいや病気への差別や偏見、配慮のなさ」についての設問において「同級生や友人・知人との人間関係」「教育・保育の機会」を高い率で上げているので、引き続き学校現場などにおける福祉教育の推進を重視して取り組んでいただきたいと思います。
- 小中学校における、福祉教育は、社協が中心になるとしても、リタイアした健常なシニア層に参加を促す努力も必要であり、認知症サポーター制度に準じた福祉教育支援員の養成も検討すべきと考える。

- 質的成果の啓発件数に偏りがあるのはなぜか。偏りがある場合、その理由がわかればそこを次年度はどのようにアプローチをすれば良いのか検討することができると思う。
- 量的成果として 906 回、一人当たり約 113 回の啓発を行っているが、会議、イベント、小地域交流事業等への参加が 906 回あったのか？もう少し分かり易く成果を記載してほしい。
- 目標値は上回っているが、今後も広報を継続し認知度を高めていってほしい。
- 件数に地域差があり、その分析が出来ると、今後の取り組む方向性が見出しやすいのではないか。

## II 参加支援

### (1) 個別性の高い支援ニーズに対する取組

#### ①評価

- 根気よく長期にわたる支援によって社会生活への復帰に進めており高く評価する。①保護者他界により社会的孤立、困窮、姉弟不和、精神疾患など複合要因でひきこもりになっている姉弟について、地域包括支援センターから引き継いで根気よく伴奏支援に取り組み、対話が出来るように、ラーメンを食べに外出する、郵便ポストに手紙を投函する、訪問看護を受ける、特技を生かしてスマホ教室の講師になるなどのステップを経て社会参加をできつつある。②近隣トラブルから社会的孤立へ、更に、精神疾患へと進み、更に近隣トラブルを多発している事例では、住宅管理団体や法律専門家などとも連携して、トラブルの解消と社会参加へと進めている。
- 個別性の高い支援ニーズは、狭間の個別ニーズでもあり、そこへの対応は「丁寧な把握」「伴奏型」「継続性」そして「専門的」な支援を通して「多様な社会参加の実現を目指していく」取り組みであり、大変と思いますが、まさに開拓者精神で取り組みをすすめてください。
- 複合課題を抱えることで社会参加が難しい人々への支援には、地域住民や専門機関との連携とそれぞれのニーズに見合った継続的で粘り強い取組みが必要である。こうした個別性の高い支援ニーズに対しては、CSW の皆さんの果たす役割は大きく、その努力が徐々に成果をあげ、拡大していることは評価できる。
- 個別性の高い支援ニーズに関しては、多様な課題が多く、対応に時間も要して、大変だと思う。支援を必要としている人たちの支えになっていることが素晴らしいと思う。支援を必要としている人は、後を絶たないと思うし、周知を広げていくことで、ニーズも増えていくと思う。継続性も求められる支援だが、対応できる体制の構築は果てしなく感じてしまう。質的成果の内容も、素晴らしく、人をとても大切にしていると感じる。
- 継続的に相談ケースに関わることで、成果につながっている。支援のケース数も非常に多いが、関係機関とも協力・連携することで、支援者にとっても継続可能な体制づくりにつとめてほしい。
- 一事例を聞き、本人が社会とつながることができ、かつ主体的に活動に参加することができるようになったのは CSW が一人ひとり丁寧に寄りそい、関わった成果といえる。今後は必要に応じて関係機関と連携しながら個別性の高いケースを支える仕組みができることに期待する。

- 限られた人数で数多くのケースに対応しているのは評価できる。
- 8人の地域福祉コーディネーターは、本当に必要な支援（量的にも質的にも）をよくやっておられると思う。その活動を評価します。
- 質的成果の中に、伴奏支援をしたとありますが、CSWが伴奏支援したというケースは複数聞いております。CSWだからこそ出来るいい支援であると評価したいです。
- 複合課題を有するケースが増加しているため、コーディネーターの対応が期待される。
- 個別性が高く複合的な生活課題を抱える人への関りは、様々な機関と連携しつつ緻密に進められたと評価出来る。

## ②検討課題や今後の期待

- 時間と根気が必要な継続支援であるのに、これだけ多くの件数をかかえているのは大変だと思います。支援者を増やす手立てが、今後の課題であると感じます。
- 複合課題を要するケースが多すぎる中、できることを精査しないと対応しきれないのではないだろうか。
- 地域支援コーディネーターの負担を軽減し効果的な支援を継続するために増員の検討。また豊富な知識、経験、スキルを有する人材の新規採用も検討して欲しい。
- 一人の力で、できる範囲を超えているのではないかと思われるので、更なる地域福祉コーディネーターの増員を期待したい。
- 目標値を上回っていることは評価できるが、それだけ複合課題を有するケースが多く、丁寧な関りも重要なため、コーディネーターの負荷も心配です。
- 困難さはあると思うが、こうした連携により、また次のケースにも活かせるネットワークが出来ていくのではと期待している。

## (2) 狭間のニーズに対する受け皿の拡充に向けた取組

### ①評価

- 次のような活動を行っており高く評価する。また、今後更に進展するよう願っている。
  - ①既存のツールだけでなく、社会福祉法人や企業、商店とも連携して、各自のもつ資源を活用した取り組みを立ち上げている。
  - ②「社会福祉法人公益活動連絡会」に参加して、「福祉なんでも相談窓口」に参加している。今後も更に連携を深めて、お互いのノウハウを活かした協働活動を発展させていくよう願っています。
  - ③地域包括支援センター、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャー、調布ゆうあい福祉公社などとの情報共有、協働が更に発展するよう願っています。
  - ④精神疾患者は自ら診察や相談に出向くことが少ないことから、精神科医と協働でちょっとした気軽に話せる雰囲気での相談会を立ち上げて、引きこもり者の誘導を行った。
- 「社会福祉法人公益活動連絡会」への参加など、各団体とのつながりを持つことはとても評価できると思います。
- 引きこもりなどの課題を抱えた人々は、いろいろなきっかけで社会参加が可能となる場合が少なくない。市内でショップを営んでいる企業が体験ワークの機会を提供し、精神クリニックを受診するのに抵抗感をもつ人々のために病院医師による個別相談会を企画するなどの取組みは、斬新でまた実際の効果も期待できそうである。社会資源というとなかなか難しいことを考え勝ちであるが、新しいアイデアでいろいろな機会を創り出すことができ

るという好事例であり、その取組みは評価できる。

- ワークショップなど、工夫が活きていて、ひきこもり本人だけではなく、家族の心も癒される素晴らしい活動。本人が外出し、また働き出せるようなシステムが構築できれば、家族は平和になれるので、頼れる流れができることを期待します。
- 今後も、地域の様々な分野の社会資源との連携をとおして、地域と本人・その家族との距離が近くなることが期待される。
- 働きかけをおこなった結果、次の機会へと発展していることは受け皿の拡充と評価できる。
- 社会福祉法人や企業等との連携など新たな可能性を模索する活動は評価できるので今後の進展に期待したい。
- 地域福祉コーディネーターの活動紹介を行ったことを評価する。
- 様々な機会をとらえて、これからも活動紹介をしていくことを期待する。市民にも行政にも、活動の重要性、必要性を今まで以上に理解してもらうための策を考えてもらいたい。
- 本人たちの世帯のニーズと、企業のニーズがマッチすることにより、支援メニューが作られたことは素晴らしいと思いますし、今後も続けてもらいたいです。
- 目標値を大きく上回っているのは評価できる。
- 社会福祉法人だけでなく企業等への働きかけが実を結んでいる点は、今後期待できる。

## ②検討課題や今後の期待

- 「狭間のニーズに対する受け皿の拡充に向けた取組み」の柱立てに関する意見です。狭間のニーズに対する受け皿を拡充することは望ましいと考えますが、狭間のニーズへの対応は専門性も求められており、社会福祉法人はともかく、企業への働きかけは一定の困難が伴うのではないのでしょうか。企業への働きかけは、一般的な意味においての地域づくりとの関連で追求したほうがいいのではないのでしょうか。
- 本人とその世帯の支援ニーズ、またその状況に寄り添った支援メニュー作成を目的として、社会資源やその拡充への取組を目指したい。
- 今後も法人や企業との働きかけで様々な取組へと発展していくのを期待したい。
- 受け皿の拡充については、社会福祉法人も既存の事業だけに囚われず、地域課題やニーズに目を向ける必要があると考えている。公益活動連絡会等に対する働きかけ（要望）を具体的に積極的に行ってはどうかと提案したい。
- 講演会などを定期的に行い、成果や課題をいろいろな団体や企業、住民と共有出来れば裾野が広がるのではと期待している。

## Ⅲ 地域づくりに向けた支援

### (1) 地域づくりに向けた支援

#### ①評価

- 各種の社会的孤立を解消するために地域の取組みを推進する支援を広範囲に行っており高く評価する。①自治会、ひだまりサロン、地域活動団体などの既存ツールの他に子ども食堂、関係機関、福祉法人、企業、商店、各種ネットワークなど広範囲に働きかけを行っている。②ボランティア意向を持つ方、市民活動支援センターと協働して、ヤングケアラーの要因である困窮、金銭的不足、及び最大のニーズである居場所がないことを把握し

たことから、話し合いを重ねて、「朝ごはんイベント」につなげた。③ひきこもりについて「家族会」を立ち上げたほかに「ひきこもり当事者会」の立ち上げに繋げた。更に、生きづらさを抱える女性自認の方による「当事者会」立ち上げにつなげた。

- 地域住民が地域生活課題を主体的にとらえ、解決を目指していく地域づくりにおいては、「ヤングケアラーについての話し合い」「居場所団体の視察」「当事者団体の立ち上げ」さらには、遺跡公園の整備など福祉にとどまらず、歴史文化を含めた多様な取り組みと共に多世代交流を含めた幅広い取り組みをすすめていることは高く評価できると思います。
- 地域活動に参加してくれる人が増えていくと心強いですね。高齢化が進み、存続が難しくなっている自治会もあると聞きました。地域活動の一環として、そういう問題も取り組んでほしいと思います。
- 地域住民自らが地域生活課題を主体的に捉え、解決を試みるような仕組みづくりを行うことは、CSW の役割の中でも取分け重要であるが、地域組織や地域の様々な団体、ネットワークに働きかけを行う中で、新しい取り組みにも挑戦していることは評価できる。ヤングケアラーについて考え、支援する会、引きこもりの当事者会の立上げに積極的に関わったことはその事例である。また、下布田遺跡公園整備のワークショップは、整備計画に市民のニーズや意見を反映させるものであるが、CSW の皆さんが、このワークショップを、史跡や公園が子どもから高齢者まで地域の全世代の交流の場になり、長期的な視点で地域福祉を促す機会と捉えて参加されていることは、大変意義深いことだと思われる。
- 地域づくりに向けた支援の一つとして取り組んだイベントや当事者会の立ち上げなど、多角面からよく考えられていると思う。立ち消えることのないように引き続き働きかけが必要だと思う。
- 目標値を超えた働きかけを行っており、実際に課題意識を持つ市民の活動を実現化し、また既存の活動から新たな活動が生まれていることは、素晴らしいと思う。
- ひきこもりやヤングケアラーなど市民のニーズや関心ごとに着目し、そこに市民や関係者を巻き込みながら地域づくりに向けた支援が行われたことに評価できる。
- 地域住民が地域生活課題の解決をめざすための活動を支援していくことは意義ある活動であると評価できる。
- 下布田遺跡公園整備ワークショップに参加したことを評価する。
- いつもとは異なる団体や会議に参加することによって、新しい課題も見え、地域福祉コーディネーターの活動の理解にもつながったと思う。
- ひきこもりの女子会のままの立ち上げを評価する。
- 積極的な働きかけにより、ヤングケアラーや引きこもり家族を支援するための居場所が複数立ち上がったことを評価したいです。
- コロナ禍での地域支援は厳しいことも多く、その対応に取り組んだことは評価できる。
- 社会福祉法人や企業等、また既存の社会資源等への働きかけは 624 件に及び、評価される。
- コロナ禍で地域づくり、地域活動は難しいことも多かったと思うが、様々な取組を進めていることができていた点を評価したい。
- 新たにヤングケアラーに対しての取り組みが出来たことはとても評価できる。今後も新

たな展開を期待します。

## ②検討課題や今後の期待

- 今後も市民の関心ごとやニーズを拾い、地域づくり支援に取り組んでほしい。
- 地域福祉コーディネーターの業務が多岐にわたっているため、その負担を軽減するためにはどうしたらよいかを考える必要がある。

## (2) 地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備

### ①評価

- ヤングケアラー、引きこもりの当事者会などの取り組みは、地域福祉コーディネーターのような専門職の設置があればこそ進んだと評価できる。
- 次のように既存のツールのフォローに加えて、新しいスタイルや新しいニーズに答える取り組みを行っており高く評価する。①ひだまりサロンや福祉法人など既存の団体のフォローによってニーズを掘り起こすとともに新規団体の立ち上げにつなげている。②新しい取組みの複合施設(居場所づくり、学生制服のリユース、子育て広場、困りごとお助け、地域のイベント会場)の発足・活動に協力している。③児童民生委員や地域活動団体と協働で、夕方から一人になってしまう世帯向けに、安心して食事、学習、遊びを出来る居場所を立ちあげた。④育児、仕事、家事に追われて心身ともに疲れ切っているシングルマザーのニーズを把握して、地域のボランティアと食事提供、お弁当配布とホッとする居場所を立ち上げてリフレッシュできるようになった。
- 地域住民が地域生活課題を主体的にとらえ、解決を目指していく地域づくりにおいては、「ヤングケアラーについての話し合い」「居場所団体の視察」「当事者団体の立ち上げ」さらには、遺跡公園の整備など福祉にとどまらず、歴史文化を含めた多様な取り組みと共に多世代交流を含めた幅広い取り組みをすすめていることは高く評価できると思います。
- 地域住民が気軽に交流できる場を整備することは、孤立の防止や見守り、地域課題の把握の観点からも重要であり、親が夕方以降も忙しい子どもたちの居場所づくりなど常設拠点の整備につながっていることは評価できる。
- ひだまりサロン他、交流の場を作れたことは素晴らしいと思う。質的成果では、実際に困っている世帯が、救われていることを大きく評価したい。今後も続けて行ってほしい。
- 各圏域に1箇所以上交流の場が立ち上がっており、活動の成果と考える。
- 地域住民が地域のニーズを把握したうえで活動内容が検討されている。
- 新規の拠点が増えただけでなく、地域のニーズに即した拠点が立ち上がっていることも評価したい。
- 地域住民の交流の場が、コロナ禍にも拘わらず数多く開設されたことは評価できる。今後どのように運営されていくのか見守りたい。
- フリースペースの創設を評価する。
- 地域福祉コーディネーターが関わって立ち上がったフリースペースの場を必要とする人たちが、地域住民とともに生活の改善の為の様々な取り組みをしていることを大変評価する。このような場が広がることを期待する。
- まだ新型コロナウイルスの影響で厳しい中、各圏域にまんべんなく常設の拠点が立ち上がったことを高く評価したいです。

- 自治会，ひだまりサロン，地区協議会，子ども食堂等でのボランティア団体，関係機関，企業，商店，各種ネットワーク等の 232 団体に対し，1,007 回の働きかけが実施され，評価に値する。
- ヤングケアラーに関心ある，意識の高い住民からの相談にも対応できた事実は，次へと育みたいと考える。
- コロナ禍においても，ひだまりサロン等，交流の場の新規立ち上げ 8 箇所が立ち上がったことを評価したい。
- シングルマザー向けの食堂及びお弁当配布が出来たことは大いに評価出来る。同じ悩みを話せる場はとても必要と思う。

## ②検討課題や今後の期待

- 地域住民の交流は，今後も大きな課題だと思います。理想を言えば，最初は同じ境遇の人たちとの輪が，いずれ異文化交流に繋がっていくといいと思いました。
- 常設の拠点についても，1 箇所検討が進んでいるということで，今後の立ち上げに期待したい。

## (3) 地域住民等に対する研修の実施

### ①評価

- 今までよりも積極的に地域へ出て研修・啓発を行っており高く評価する。①公民館の成人学級で講演して、「社会的孤立とはどんな状況か」「どのようにしてニーズを把握するか」「ニーズに対してどんな取り組みをしているか」「地域の取組をどのように広げていくか」を丁寧に説明し、意見交換を行った。②地域活動団体の運営・活動に参加して広報と啓発を行っている。③地域活動団体、ゆうあい福祉公社との協働で小学生と保護者に認知症サポーター講習を行い「認知症とは」「どのように声掛けすれば良いか」などの啓発活動を行った。④ひきこもり家族会で元当事者に実体験を講演してもらい「何をどのように悩んでいた」か具体的な説明をしていただいた。⑤地域支え合い推進員と協働でスマホ教室やスマホ説明者養成講座を行いボランティアの掘り起こしを行った。
- 地域生活課題を当事者と福祉機関・団体だけでなく、住民一人一人が発見、把握、理解していくための研修は、地域福祉の広がり形成するうえでも重要と考えます。実際の取り組みの中で、当事者同士の話し合いの中で、様々な変化が生まれていることは重要と考えます。
- 企業との連携は、とても評価できると思います。大きな企業も多いので、色々な研修ができると思いしました。
- 地域住民等に対して、地域生活課題の理解促進を図るために、講座の開催、講師派遣、事例視察など幅広く活動を実施、量的にも質的にも目標を達成していることは評価できる。
- 講座などに抵抗を感じる方もいると思うが、多くの回数を開催されていて素晴らしいと思う。身近に感じられ、参加しやすい工夫を引き続き期待します。
- 積極的に研修を実施している。
- 目指す方向が類似した団体同士の意見交換の場のコーディネートは、今後活動をするにあたり相談や連携を図れると考えられ、よい取り組みだと思う。
- 地域福祉活動への参加に意欲をもっている住民に研修の機会を設ける活動は有意義であ

りまた参加を促すきっかけにもなるので継続的に行って欲しい。

- 元引きこもり当事者の講演の実施は良かったと思う。
- 地域の中に入り、積極的に講座を行うことで地域の自治会等と、顔の見える関係を形成できていたのだと思います。
- ひだまりサロン等の目的を十分に理解し、多くのボランティアが賛同し、子ども達が安心できる居場所が増えたことは評価に値する。交流の場を広げる取り組みに期待する。
- 活動を始めようとしている方と、既に活動をされている方の想いが近い取り組みをしている団体との意見交換会の場をも受けられるのは良い取り組みだと思った。またそれが実施出来るのもコーディネーターの強みだと思った。

## ②検討課題や今後の期待

- 地域福祉コーディネーターとともに地域で活動に取り組んでくれる住民を増やしていく事が大きな課題。その意味でまだ始まったばかりであるが地域福祉ファシリテーター養成事業に期待したい。5年10年と継続されれば地域共生社会づくりの大きな力のなるように思う。
- 目標以上の研修を実施したことは評価できるが、具体的にどのような研修がこの報告のもとになるのかがイメージしづらくわかりづらい。

## IV 「生活困窮者等の支援に向けた地域づくり事業」対象の取組

### (1) 大学との連携による地域福祉推進の担い手づくり研修の実施

#### ①評価

- 教育機関との共同によって、若い人達のボランティア参加や地域福祉の担い手育成とフォローを行っており高く評価できる。①ルーテル学院大学の地域福祉ファシリテーター養成講座との連携を継続して取り組みを行い、地域福祉の担い手育成とフォローを行っている。②地元の電気通信大学と協働による学習支援ほかの取り組みを進めている。
- 大学と連携した研修や見学は、より専門性を踏まえた地域福祉推進の担い手の確保・育成につながるものであり、引き続き取り組んでいただきたいと思います。
- 調布市は大学が多いので、学生を絡めた取り組みは大変良いと思いました。もっと大きく広がることを期待します。
- ルーテル学院大学の地域福祉ファシリテーター養成講座との連携により、地域住民自らが地域福祉推進の役割を担い、地域の課題を考えることや地域活動者をつなぐ役割を担える人材を育成することを目的とした取組みである。令和3年度から始めたユニークな事業であり、具体的な成果などは今後を見守りたい。
- ファシリテーター養成講座を通して、1期生、2期生と、今後に繋がっていく活動。来年度に期待しています。
- 養成講座で終わりとせず、フォローアップ講座を行うことで担い手が定着する仕組みになると思う。今後もその担い手が定着し、継続できるような取り組みにも期待する。
- 良い取り組みと思うので今後参加者の増加と横への広がりを注目していきたい。
- 大学との連携により地域福祉ファシリテーター養成講座を11回も開催できたこと、また実際に視察を実施したことは大きく評価できる。
- 今後もファシリテーター研修を開催し、地域福祉推進の役割を担える方を増やせるよう

期待したい。

## ②検討課題や今後の期待

- 修了者同士のネットワークも広がっていくこと、また自分も担い手になれるのでは、と感じる住民がより増えていくような取り組みとなることを期待する。
- これからもこの活動を広げていってもらい、地域福祉コーディネーターの補助的な役割を地域福祉ファシリテーターが担ってくれることを期待したい。
- 地域福祉ファシリテーター養成講座修了生が、継続して活動していただくことを期待したいです。
- 大学との連携による研修受講生のネットワーク化等、担い手づくりの取組に期待したい。
- コロナ過が開けて、ファシリテーター研修の受講生増加を期待したい。

## ※その他御意見、御要望等（自由記載）

- 地域福祉コーディネーターのみなさんが高いモラルと意欲を持って日夜取り組んでいることに感銘しています。また、この制度が創成期から熟成期に移っているので担当者の異動が多くなっています。しかし、地域福祉コーディネーターの業務は通常の業務と異なり、単に経験を積めば良いものではありません、属人的であり、人と人とのつながりが強い信頼関係となってスムーズにお行えている事業です。更に、対象事案はそれぞれ異なっており対処の仕方も一律ではないです。したがって、ノウハウや人とのつながりを如何にして人生経験の少ない若い新人に継承するかが大きな課題です。ベテランと若い新人がペアを組んで助走期間を設けるなど人事異動に際して特別な配慮が必要と強く感じます。
- 活動状況等の情報が、評価を求めるCSW当事者からのものでありどうしても肯定的な内容になり易い。そうした中で客観的に評価をするというのは難しいと感じた。不勉強のためCSWについての基本的な知識、その他福祉関連の団体の活動状況等々十分理解しているとは言い難い状況のため当事者からの報告に頼らざるを得ない。共に支援活動に参加した団体や支援を受けた人々からの意見も聞いてみたいと感じた。
- 量的成果については、個々の内容が不明なこともあり数字だけで多いのか、少ないのかといった単純な評価が難しい。
- 地域福祉コーディネーターの方々の日頃の活動に感謝いたします。ただ、活動の範囲が広く、難題も多いように思われますので、お体とか精神に御負担が重すぎるのではないかと心配になります。
- ヤングケアラーについての詳細な情報を要望したい。

調布市で、地域福祉コーディネーターの配置の配置が始まってから10年が経過した。地域福祉推進会議での地域福祉計画策定過程で、地域福祉コーディネーター配置の必要性が議論され、地域福祉計画で配置が位置づけられ、調布市の施策として配置が計画的に進められてきた。その過程で、調布市の福祉圏域を8圏域とする整理も行なわれ、8圏域に配置された地域福祉コーディネーターがそれぞれの福祉圏域で活動に取り組んでいる。その活動内容について、生みの親ともいえる、地域福祉推進会議で、普段の活動状況が、原則毎回報告され、日常的に評価や注文も行なわれ、活動が見える化されていることは都内でも珍しいのではないかと思われる。

令和4年度の地域福祉コーディネーターの活動報告を見ると、個別支援の相談支援の相談経路が「本人周辺」が増加し46.4%になっている。これは地域福祉コーディネーターと役割の認知が、かなり広がってきたことを示している。また、新たに相談を受け付け継続支援が必要なケースと、過去に受付継続支援しているケースが181件あり、相談から必要な伴奏型支援が行なわれている事が分かる。

相談取り組み事例として報告されている4事例を見ると、これからの地域共生社会づくりで課題になる社会的課題に取り組んでいる事が良く分かる。障がいを抱え近隣から孤立している住民に、近隣住民、医療、福祉支援ネットワークをつくり支援を行なう取り組みは、今後実施段階に入ると予想される、重層的支援体制事業の基盤が、8圏域の福祉基礎圏域で動き出していると評価できよう。この実践の上に重層的支援体制事業が行なわれるとすると確実な進展が期待できるように思われる。

さらに、圏域別専門職等ネットワーク会議が、全ての福祉圏域で実施されたのは評価される。しかし、夫々の団体機関から共有し取り組むべきケースの判断基準、対応策を検討し、計画を作成、さらに役割分担、協働し、モニタリング等の主な担当は誰が担当するのか、地域福祉コーディネーターであるとする、ケースが増えていけば担いきれなくなる事であろう。適切な配置人数を考慮する事が将来課題となろう。さらに夫々の機関や団体が、既存の役割の範囲で協働するのか、既存の役割の範囲を超えて協働し合うかが大きな課題になろう。既存の役割を超えないとすれば、地域福祉コーディネーターの役割が重くなり担いきれなくなるように思われる。コーディネートする期間とケアの期間とを分けて役割分担考えることも必要。行政は、その地域担当職員を置き、地域福祉コーディネーターとの協働で進める体制づくりを検討する事も重要な課題。さらに福祉圏域に、しっかりした住民主体であり行政、地域福祉コーディネーター、民生委員、福祉事業者、地域包括支援センター、自治会、ボランティア等が参加する「協議体」をつくる事、地域福祉コーディネーターと協力して住民の立場から地域福祉の推進に取り組む地域福祉ファシリテーター養成に取り組む等も課題である。